１　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390600286		
法人名	サン･ミルク株式会社		
事業所名	はとおかざきグループホーム長寿園		
所在地	北上市鳩岡崎３－３２－１		
自己評価作成日	平成28年11月15日	評価結果市町村受理日	平成29年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=0390600286-00&PrefCd=03&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1　岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年12月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気を大切にしながら入居者の方の意向を尊重し、安心安全に過ごしていただけるようにしています。職員主体ではなく入居者の方お一人お一人の能力に合わせ、出来ることは行ってもらい、日常の中に役割を持ってハリと楽しみを感じて生活していただけるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・開設して数ヶ月であるが、地域との交流が活発に行われている。例えば、毎月1度は餅をつき、餅食を行っているが、近所の一世帯ずつ順番にお配りしていることや、多目的室を地域の方々に開放し、何でも話せる「サロン」を立ち上げ茶菓代を持ち寄り交流が図られている。
・各居室には大きな窓があり、圧迫感がなく過ごせることと、災害時の避難が容易になると思われる。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	↓該当するものに○印	取り組みの成果
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	既存の事業所の理念を職員全員で見直し、自分たちの望む理念も同じであると考え実践している。玄関、事務所に掲示しており、職員が自然と目にし意識付けしやすいようにしている。さらに職員会議などの機会に確認している。	既存の事業所の理念を基に全職員で協議した結果、同じ理念で実践することになった。玄関、事務所に掲示している。職員からの提案で、職員会議の場で唱和し、理念を共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の民生委員、児童委員の方7名がｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑを見学したいといらっしゃった。ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑに関して質問などを受けたり入居者の皆さんとも交流などをしていただけた。また週に一度地域の方が自由に集う「サロン」に2名参加し地域の方々とお茶を飲みながらおしゃべりをしたりゲームを行って交流してきた。	地区の民生児童委員7名が見学に訪れ、利用条件・利用料について学ばれていた。地域包括支援センターで週1回開催している「サロン」に参加し交流を図った。事業所独自でも、「サロン」を多目的室に設置し、毎月1回開催している。月に1度お餅をついていて、その餅を近所（1世帯ずつ）へ順番にお配りしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、認知症の症状や行動についてお話し、認知症の方への理解を深めていただいている。実際に地域で認知症の方への対応の仕方や家族へのかかわり方について参考になったといっていただけた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑでの生活の様子や献立や行事内容、ヒヤリハットの事例などを報告している。直近の会議では災害対策について話し合い、安全な避難の仕方や備蓄で必要なものなどのアドバイスを頂いた。	利用者代表、家族代表が委員となっているが、家族代表者の出席は未だない。災害対策について話し合われ、安全な避難の方法や備品・備蓄についての助言をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターから、地域の方が気軽に遊びに来れる「サロン」の提案があり、月に一度1時間ほど、地域の方とお茶を飲みながらゲームや作品作り、おしゃべりなどを通し交流できる場を作るための準備を一緒に行っている。12月からスタートの予定としている。	市担当課職員が委員として参加していることもあり、情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所の前に身体拘束とは？どのような行為か？もたらす弊害とは？などの勉強会を行い職員が理解し身体拘束は行わないケアに努めている。夜間の安全確保以外は施錠はせず日中の玄関は開放している。	事業所開設の1ヶ月前に、身体拘束についての勉強会を実施し、拘束を行わないケアを実践している。玄関の施錠は、防犯のために夜間のみとしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部で研修が開催されるときは可能な限り参加出来る様にし、内部でも勉強会を行う予定である。グループホーム内でも朝礼時などで、ニュースに取り上げられている介護施設内での虐待についての話題を取り上げるなどして、虐待防止を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について管理者が外部研修に参加し理解を深め職員にも伝達し理解に勤めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は話し合いやすい雰囲気を大切にしてゆっくり丁寧に説明し理解していただけるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい雰囲気を作りながら面会時や電話で家族の要望を伺い運営に生かせるようにしている。「出来ることは何でもさせてほしい。」「訪問歯科で入れ歯を作ってほしい。」「選挙に行きたいといったら連れて行ってほしい。」などの要望が聞かれた。	家族からは、面会時や電話で意見・要望を伺っている。入れ歯を作ってほしい、出来ることは何でもやらせてほしいなどの要望があり、それぞれ対応している。利用者本人からは、本を読みたいとの希望があり、図書館から本を借りて読書を楽しんでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	曜日ごとに入浴していただく入居者様の人数と職員の業務の流れについて意見があり職員全員に意見を聞きスムーズに業務が出来る様に改善し反映できた。入居者の皆さんに簡単に出来る運動としてラジオ体操をしてもらいたいと言う提案がありCDを購入した。	職員会議などで職員からの意見要望を聴取している。職員が気付いた時は、いつでも管理者に話せる環境ができている。入浴人員についても、安心安全を第一に考えた職員体制で実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意欲を持ちながら健康に働けるように勤務形態はなるべく負担のないように考慮している。また資格取得により給与水準へ反映させ向上心を持って働けるような体制にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議などとあわせて勉強会も行っている。先日はノロウイルスなどの感染について勉強をし、嘔吐物の処理方法などについて確認した。新人職員については現任の職員がマンツーマンで付きケアの方法を習得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じブロックのグループホーム会議に可能な限り参加し、お互いの運営について情報交換などを行う機会を持つようにしている。また同法人内で3箇所あるｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑでお互いに牽制しあい、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉、表情、雰囲気から不安に感じていることがあればすぐに気づけるようにし耳を傾けて安心して生活出来る用に支援に努めるようにしている。人一倍寂しがり屋で居室では一睡も眠れず暴言ばかりだった方が、夜間はホールで夜勤者のそばで休んでもらうようにしたところ穏やかにぐっすり眠れるようになった。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が現在困っていることなどについてゆっくりお話を伺い理解し、解決出来る様に努めている。自宅では家族との折り合いが悪く雰囲気が悪かったことに困っていたがｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑに入居したことで穏やかになり家族との関係も少しずつ修復でき、健康状態もよくなり家族より感謝とねぎらいの言葉をかけていただいた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの相談時に、申し込み理由などからまずどのようなことで困っているか、どのような支援を必要としているかをお聴きしている。家族が留守にしがちで薬をきちんと飲めないことに困っていた方が入居後確実に服薬出来る様になり、検査結果の数値がかなり改善したと喜ばれた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来ることは積極的に行っていただき、難しいところだけお手伝いするように努めている。洗濯物の干し方、たたみ方、食器拭き、居室の整理整頓など行っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑでの様子がわかる写真つきの広報やお手紙をお出ししたり、何かあれば電話や面会時にご様子をお伝えしている。体調不良などで家族に連絡すると、即受診につれていってくださるなどの協力を得られている。畑で取れた野菜などの差し入れがあり入居者の献立に取り入れて喜んでいただけた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類と一緒に日帰り温泉に出かけたり、自宅へ外泊されるなどされている。また行きつけの美容院で髪を染めたりお盆には家族とお墓参りに出かける方もいる。自宅にいた頃の地区の民生員や近所の方が面会に来られることもあり、お茶を飲みながらゆっくり談笑されている。	遠方の家族は、お盆とお正月の面会に来た時にお墓参りや自宅を訪れている。馴染みの美容院を利用したり、家族と日帰りで温泉へ出かけている方もいる。自宅の近所の方が面会に来て、お茶を飲みながら談笑されている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆でお茶を飲みながらトランプやしりとりをしたり歌を歌うなど、自然に交流が深められるような場を設けている。誕生日には誕生日会を行い、皆さんからお祝いの言葉を頂いている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも相談援助に乗ることが出来ること、気軽に立ち寄っていただけるようにお話をすることとしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような暮らしを望んでいるか本人や家族から伺いできるだけ自分らしく生活が出来る様に努めている。癌の手術をした方がこれ以上は何も治療はしたくない。と言われ本人の意向を尊重し経過は自然に任せている。意思表示が困難な方は表情や雰囲気から要望などを汲み取れるように努めている。	担当制で利用者を支援している。日常生活の会話、毎日の朝礼、引き継ぎ書、職員会議後のケース処遇会議などで利用者の思いや意向を把握し、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活暦や暮らし方を本人、家族、周りの方々からお聴きし、今までの生活スタイルを大きく変えることなくなるべく継続出来る様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の中で何をしたいかを把握しながら自由に過ごせるようにしていただいている。クロスワードパズルが趣味の方はお部屋でゆっくりと集中して取り組んでいただいたり、皆と賑やかに過ごされたい方はレクやお話を通して楽しめるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からどのような暮らしをしたいかをお聴きしながら、会議などで職員からよりよいケアをするための様々な意見を取り入れプランに盛り込んでいる。計画の変更が必要かどうか月に一度は見直しをしている。	家族からは面会時（遠方の方は電話やお手紙で）に意見要望をお聞きしている。利用者からは日常生活の中から意見要望を聞いている。医療面については、主治医からの助言をいただき計画を策定し、家族へ説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の言動や行動、行ったケアなどを個別に記録しその場にいなかった職員含め全員が把握出来る様にしている。薬に変更があり夜間にふらつきが見られるなどの記録をもとに立ち上がりの際はふらつきによる転倒に注意しましょうと周知を図った。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が都合で受診に連れて行けないときなどは、代わりに職員がお連れすることもある。遠方で中々面会に来れない家族の代わりに、衣類や日用品をこちらで用意してほしいなど、その時々にあるニーズに柔軟に対応出来る様に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地区の駐在署員の方に出席していただき地域の安全な暮らしについてお話を伺った。また区長、自治会長、民生委員の方にも散歩の際の危険な場所や不審者などの情報を伺い安全な暮らしが出来る用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で6名の方が訪問診療を、3名の方は以前から通っていたかかりつけ医を利用している。どちらも受診の際はｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑでの様子や変化をお伝えし、適切な診断をしていただけるように努めている。また家族が受診に連れて行けない場合は職員がお連れすることもある。	希望により、訪問診療を受診している方は6名、以前からの「かかりつけ医」の受診者は3名である。家族へは、適切な診断の情報として日常生活の変化などを伝え、付き添っていただいている。家族が付き添えない時には職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の些細な変化なども報告してもらい、医療機関や看護師に伝えて速やかに適切な処置をしていただけるように努めている。入浴の際の身体の観察などで足の腫れを確認し、受診し田結果炎症を起こしており早めの処置を行うことが出来た。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関へｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑでの生活の状況をお伝えし、退院の際は病院での状況を教えていただくなどの情報の交換を行い、適切な入院治療を経てスムーズに退院が出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で重度化した場合のｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑで出来ること出来ないことをお話している。また最期はどの場所で過ごしたいかなども家族と話をしながら方向性を共有している。ご本人や家族が希望すれば最期までｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑで過ごしていただけるよう支援していく。	協力医療機関から看取り介護について、いつでも支援が得られる体制ができたので、本人・家族からの希望に対応できる体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が急変したとき、転倒、発熱時などの対応を職員で確認している。職員の緊急連絡網なども準備して緊急時に職員がすぐに対応出来る様にしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は消防署員立会いの下災害を想定した避難訓練を行っている。地域の方にも非常事態での協力をお願いしたり、消火器の使用方法なども全員が身につけている。2回目の避難訓練では夜間に夜勤者1名で対応する訓練を行う予定。	１１月の避難訓練は、夜間帯を想定し、午後4時に夜勤者１名で対応し、スタッフは地域住民の役割を担当した見守り役での訓練を実施した。利用者は、落ち着いて訓練に参加していた。災害時における地域住民の協力体制として参加をお願いしているが、実現していない。	地域住民との防災協力体制づくりを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩という敬意を持ち、馴れ馴れしい態度や言葉遣いはしないように努めている。トイレ誘導などはそっと行うようにし、プライバシーに配慮している。居室に職員が入る際は必ずノックをしたり、居室にいないときは本人に承諾を得て入室するようにしている。	日常生活では、馴れ馴れしい態度や言葉遣いをしないように配慮し、トイレ誘導にもプライバシーに配意した声掛けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に日常生活での希望を伺うように勤めている。「中華そばとソフトクリームを食べに行きたい。」という希望があり計画を立てている。「散歩に行きたい。」と希望があるときは職員と一緒に散歩に出かけている。一緒に買い物に出かけ食べたいおやつを選んでくることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活の流れの時間はあるが、本人のスタイルや希望にそって支援している。少し遅くまで寝ていたい方にはゆっくり起床した後に朝食を摂って頂いたり、趣味のクロスワードに居室で集中して取り組んでいただいたりしている。毎日の日課でラジオ体操を行っているが部屋で過ごされる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替える服は職員が見守りながら本人に選んで頂いている。お化粧をされたりお気に入りのシャンプーを個別に用意される方もいる。。2ヶ月に一度出張理美容に来ていただき本人の希望を伺いながら髪の毛のカットや顔そりをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力にあわせ食材のカットや味見、盛り付けなどをして頂き調理にも参加してもらっている。食後は食器洗いを手伝っていただいている。おやつにはホットプレートで皆でホットケーキを焼き、フルーツやクリームを各自でトッピングして頂く事もある。	食材のカットや盛り付けなど、利用者の可能な範囲で調理に参加している。月に一度は餅食（餅つきは職員が行う）があり、利用者に大好評である。図書館から借りた料理本を見ながら食べたい料理などを聞き、食事に反映している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は把握出来る用にそのつど記録し、不足のないように心がけている。咀嚼や飲み込みが弱い方にはやわらかめにしたり刻みで対応、アレルギーがある方には別の食材に替えたりと配慮している。おかゆが好きな方にはおかゆをお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声かけをして口腔ケアをしていただくようにしている。入れ歯を外して洗っていただき、口腔内に残渣物がないようにしていただいている。訪問歯科診療の先生に来ていただき、口腔ケアのアドバイスなども頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を見ながら排泄のパターンを把握し、時間をみてトイレの声がけをしたり、一人で行けない方には定期的にお連れしなるべくトイレで排泄が出来る様にして頂いている。残存能力に合わせて、ご自分でズボンなどを上げ下げていただき仕上げが不十分な場合は職員が手伝うようにしている。	排泄チェック表から排泄パターンを把握し、声掛けしている。ほとんどの利用者は、声掛けのみで排泄できる方ばかりである。夜間は、定期的にパット交換を要する方、一定間隔でのトイレ誘導を支援している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬だけに頼らず自然な排便が促されるように、食事は肉魚野菜とバランスの良いメニューを心がけ、納豆やヨーグルト、牛乳や乳酸菌飲料などを取り入れている。水分の補給や毎日身体を動かす時間を設け腸が働きやすくなるようにも意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後の2時から4時に入浴を行っているが別の時間が良いと言う方は今のところいらっしゃらない。入浴の声がけをし「今日はちょっと入りたくない。」と言う方には無理強いせず別の日に変更するなど臨機応変にしている。入浴剤を希望され使用することもある。一日おきに入浴したいと言う方には希望に沿うようにしている。	見守り介助入浴者がほとんどである。洗髪と背中を流す程度を手伝うことはある。希望により、入浴剤入りのお風呂の日もある。利用者と買い物に出かける日（月・水・金）は入浴者も少ない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望される方は食後に昼寝をして頂き身体を休めていただいている。夜間になかなか寝付けない方にはホットミルクをお出ししたり、ゆっくりお話を伺い安心して眠って頂けるようにしている。居室の温度や湿度、布団の調整などにも気を配るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する内容はお薬手帳や処方箋を確認して把握している。また薬剤師からも薬の特長、飲み方、副作用などの指導を頂いている。また新しい薬が追加や変更になったときは副作用などでの症状の変化にも注意して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーが好きな方には起床後やおやつの時間に飲んで頂いている。柿が実る時期には皆さんに柿の皮をむいていただき干し柿つくりを行った。新聞のチラシを利用してゴミ箱作りにも励んでいる。歌が好きな方はカラオケも楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜の季節には桜並木のある場所へドライブをして笑顔で写真を撮ってきた。地域の方が週一回集まってお茶を飲みながらゲームや体操を行う寄り合いの場へ2名の方をお連れした。お盆にはお墓参りをしたり、読書が好きな方と市立図書館へ出かけ、お好きな本を選んで借りてきたこともあった。ご家族と温泉に出かけながらお昼ご飯を食べてこられる方もいる。	天気の良い日には、2～3人で近隣を散歩している。地域の方が週一回集まってのお茶会にも参加したり、図書館へ出かけて好きな本を借りて読んだりしている。食材の買い出しにも、職員と一緒に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使い方や管理が可能な方には、所持していただきほしいものがあるときはその中から支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話したいと希望あれば職員が手伝いながら電話をかけたり取りついだりしている。姪からはがきが届き、お返事のはがきを出した。字を書くのが難しかったので本人の言葉を職員が代筆した。最後に自分の名前は本人に書いていただくことが出来た。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく感じられるようにテラスの窓からたっぷり自然な光をとりいれながら景色も眺めることが出来る用になっている。カレンダーや観葉植物を備え季節や自然を感じていただけるようにしている。新聞を配達してもらい時事関連に触れてもらっている。エアコンや床暖房をしようしながらも適宜に空気の入れ替えなども行い、温度や湿度にも注意を払っている。	カレンダーや寄贈された観葉植物が食堂に飾られている。エアコンや床暖房で温度管理をしている。テラスの窓が広く、季節の変化を感じながら日常生活を送ることが出来る。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で賑やかにテレビを観たりおしゃべりを楽しむ空間と、窓際で外の景色を眺めながらそっと一人の時間を過ごせる空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	介護用ベッドのみ備え付けているが、寝具類やタンスなど自宅で使い慣れたものを持ってきていただいている。若い頃の写真やアルバムを持ってきている方もいる。カップや湯飲み、箸などは自宅で使い慣れたものを使用している方もいる。	介護用ベッドとエアコンは備え付けである。テレビ・衣装掛け・衣装収納ケース・整理タンスなど、自宅で使い慣れた物を持込みしている方もいる。家族の写真を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレなどには手すりやバーを備え付け、それを利用しながら出来るだけ自立した動きが出来る様にして頂いている。トイレなどには大きく明示し迷わず向かえるようにしている。		